



ゲヘナAn リプレイ 第一話「獄の残り火」

本キャンペーンでは以下のハウスルールを使用しています。

- ・ 墮落ポイントの上限値を総ランク成長ごとに + 1
- ・ 判定後に墮落ポイントを獲得したときダイス目を好きな目に変更できる
- ・ 判定前に墮落ポイントを獲得したときダイスを 2 つ増やして判定できる
- ・ 術技のレベルアップに必要なランクを変更
 - 1 レベル (ランク 1) 2 レベル (ランク 3) 3 レベル (ランク 8)
 - 4 レベル (ランク 15) 5 レベル (ランク 22) 6 レベル (ランク 29)
 - 7 レベル (ランク 37) 8 レベル (ランク 45)
- ・ 離脱判定など本来なら能力値のみで判定を行う場合でも必ず何か適当な技能を使った判定をする。(離脱判定なら軽業)
- ・ コネ技能はフリーポイントを使用してのみ成長可能

総ランク 13 フリーポイント 5×3 、所持金 + 2000 Di のキャラクターでセッションを開始しています。

また、サプリメント「魔星降臨」「獄王顕現」を使用しています。

キャラクター紹介

GM：まずは自己紹介をどうぞ。

p c 1：キャラクターのですよね？

GM：プレイヤーの自己紹介してもいいぞ（笑）

p c 1：昨日やったセッションで初めての人が居たんで。（笑）キャラクター名はアフタル・ラフマーンで、アブドゥル・ラフマーンの娘で人間で...

GM：アブドゥル・ラフマーンって誰だ？

p c 1改めアフタル：古ウマイヤ朝の開祖でアラブ帝国からイスラム帝国になるまでに滅ぼされた王国の...

GM：ゲヘナに、そんな王国はありません...

アフタル：自分で作ったんですよ、いいじゃないですか。（笑）女で16歳です。一応婿探しの旅に出ています。ちなみに動きにくい服で男装です。

GM：ゲヘナ世界はアラビアっていても女性があんま肌を隠したりしてるわけじゃないんだけどね。つゝか、むしろサンプルのジャグラー暗殺士のエロイ格好とかさ（一同笑）

p c 2：（ルールブックを指して）ここに書いてあるじゃないですか！ファンタジーって！（笑）ファンタジーって付けば大丈夫！（笑）

GM：なんでもファンタジーって付けば大丈夫（笑）じゃ、もう一人の方。

p c 2：え～、名前はモバラン。

アフタル：あれ、ケパンじゃなかった？

p c 2改めモバラン：それは俺が従えている妖霊（ジン）の名前。まあ、俺も妖霊だけどな、俺の名前はモバラン。

正確にはモバランは半妖霊（ジンムヤ）である。

モバラン：もともと袈唇と呼ばれる紫連杯（マーリク）に所属していたんだが、何かそこが嫌になったらしく、逃げてきた。今はフリーランスで頑張ってます。そしていつも金に飢えている。そんなキャラ。で、ケパンという女性の妖霊を従えている。妖霊を従えていることは隠していないが、自分が半妖霊であることは隠しているそんなお年頃の21歳。以上！

アフタル：妖霊にして若いのかな？

モバラン：半妖霊だからそんなことない。

GM：むしろ半妖霊は人間より寿命短い。

アフタル：そうなの？

モバラン：うん、50いくかな～、人生50年とはよく言ったもんだぜ（笑）

GM：長くてもいいんだけどね。もともと妖霊がうん百年といきるから、まあそれはいいや。では、アフタルよ。まずは君のシーンから始める。

アフタル：あ、はい。

オープニング：アフタル

GM：いきなり、物陰から一人の魂装士が襲い掛かってきた。

モ balan :「ヒッハー、ここであつたが百年目、ここで死ね〜」(笑)

GM : いやいや、そんな下っ端役みたいじゃなく、何の感情も表さず無表情に襲い掛かってくるよ。

アフタル :「もう、これだから...。」

モ balan : と、いいながら君の目の前が真っ暗になっていく(笑)

GM : なんだこりゃ〜って、違う。そうならないために危険予知で振りたまえ。

アフタル : 4以上の目が成功?

GM : うん、だから今回は4以上が3つあるので達成値は3。気付きました。んでは、魂装士が襲い掛かってくる。

アフタル : 魂装士なんですか?

GM : うん、武器に霊が纏わりついているのが見える。

モ balan : 俺か!(別のキャラクターシートを指して)こいつか!イチ balan か!?

GM : ちげーよ!!

イチ balan は以前のセッションで p c 2 が使っていた魂装士のキャラクターである。

GM : とにかく、こちらのイニシアティブは12だ。

アフタル : こっちは14です。

GM : なら、相手が殴りかかってくるよりも早く行動ができる。

アフタル : 全く状況が分からないので、とりあえず、峰打ちというか...倒しますか。

GM : 襲い掛かってきてるから切り殺したところで問題ないだろうがね。

モ balan : その男の顔に見覚えとかないわけね?

GM : とりあえず、アフタルはね。

アフタル : じゃあ銘刀で...えっと...どうすれば

GM : 攻撃の場合は牽制か通常か渾身か攻撃方法を選ぶ。で、順に3, 4, 5、と基準値が設定されているからその値以上なら成功となるわけだ。まずは牽制でいくのが基本だな。刀術の判定数が8だろ? だから8個振りたまえ。

アフタル : (ころころ) 7成功

GM : 7成功で命中値は7か、こちらの回避値は4なので命中した。で、失敗した分が追加ダメージになるから基本ダメージに足して。で、ダメージは9点ね?

アフタル : はい。

GM : 9点だとこちらの装甲値は5点しかないから4点抜けてくる。では、2撃目をどうぞ。連撃増加値を乗っけてその分だけダイスを増やして。

モ balan : 7成功なので3増える。

GM : いや4つ。銘刀は追加効果で連撃増加地が増えるから。

モ balan : うわ、知らね~そんなの知らね~。刀士なんか目通したことねえ。

アフタル : なんですですか?

モ balan : やる気ねえもん。俺はもっとオカルティックなキャラが好きなんだ。

GM : 刀士が一番単純だからね。

アフタル：次は通常行って見ますか？（ころころ）8個成功です。

GM：こっちは回避できないのでダメージは？

アフタル：14です。

GM：9点抜けました。では3撃目を。

アフタル：8個だから連撃増加値は変わらず…。闘技チットは？

GM：まだもらえません。最後、連撃が終わったときもらえます。

アフタル：じゃあ、もう一度通常で（ころころ）

モバラン：華々しく渾身しないの～？

GM：まだ4撃目が打てるから、

モバラン：なに～、4回も打てるのかせこいなあ、お前。

GM：（せこいと言うのか？）刀士は連撃回数が多いのも強みだからね。

アフタル：10です。ダメージは12点

GM：では7点承りました。おお、もう半分削れてる。じゃあ、ラスト一発を。

アフタル：渾身行きます。（ころころ）今度は…、やべ！低！3つですね。

モバラン：そこで悩める君にちょっといいことを教えてあげようじゃないか。（邪悪な笑み）墮落ポイントと言うものがこのゲームにはあります。墮落ポイントを一点消費することにより…

GM：墮落ポイントは消費するんじゃない、獲得するんだ（笑）

モバラン：おう！（笑）墮落ポイントを1個ゲットすることによってダイス目一つを好きな目に変更することができるので～ス。

GM：本来のルールでは1か6に変更するだけだね。こっちの回避値は4なので5にしないと当たらないぞ。

モバラン：まあ、こんなところで2点墮落するのは超嘘だ。（笑）

アフタル：はい、では避けられました。

GM：では闘技チットを1点獲得してください。では、こちらの攻撃だ～。半分以上生命力を削られたにもかかわらず。無表情のまま襲い掛かってくる。次のターンまではもつまい、【魂装・撃】だ！命中値7！

アフタル：回避は避けが8か…基準値が3（ころころ）当たりました。

GM：ダメージは8点。

アフタル：装甲値が5なので3点くらいしました。

GM：2発目は渾身で命中は5点だ。

モバラン：そんなら期待値で避けられるかな？

アフタル：（ころころ）うわ、だめだ！低い！4成功。

GM：よっしゃあ、当たったぜ～。ダメージは16点だ～！

アフタル：16点か痛たた、

GM：こちらは終わりなので次のターンそちらからどうぞ。

アフタル：え～と、まずは牽制で…

GM：闘技を何か使ってもいいぞ、準備行動で。準備行動はFEARゲーで言うところのマイナーアクションだ。とりあえず【魔薬・閃】でも使ってみたらどうだね？

アフタル：敏捷が2増える？

GM：刀術の判定数は敏捷で決まるので判定数が2増える。

アフタル：ああ、そうか。じゃあチットを払って...最初は牽制で(ころころ)当たってダメージは12。

GM：12か、まだ生きてる。

アフタル：じゃあ通常で(ころころ)7です。ダメージは16。

GM：それでくたばりました。戦闘終了なので闘技チットは2枚もらえますが1枚しか残せません。

その攻撃に切り伏せられ魂装士はその場に崩れ落ちる。と言うところでシーンを変えよう。

オープニング：モバラン

GM：では、モバラン君。君は界螺のシュオール支部に呼び出しをくらっている。

モバラン：え～、僕は慇懃に支部に入ってくるとですね、

「な、なんでもございましょう」(笑)

アフタル：慇懃じゃないよ。(笑)

GM：慇懃なのに下手だぞ。(笑)

モバラン：後ろ暗い過去があるのですね。(笑)で？

GM：ここの支部の幹部の一人であるザイドに呼び出しをくらったモバランは彼の前に居る。

モバラン：こうズボンに手を入れて...(胸をそらす)

「な、何でもございましょう」(一同笑)

GM：「お前の不遜なんだか、下手なんだかよく分からん態度はいつ見ても不思議な気分させられるな」(笑)

モバラン：「ほど良く場も温まった所で要件をお聞かせ下さい。」

GM：「うむ、ならば本題に入ろうか。ここ数日、街で辻斬りのように人に襲い掛かる輩が居る。」

モバラン：(目を彷徨わせながら)「ほほう、それは恐ろしいですね。」(笑)

GM：「何か実に心当たりでもあるのか」(笑)

モバラン：「そういうわけじゃないですが、俺が襲われたらひとたまりもないんじゃないかな～と。でも、大丈夫！ちゃんと生命力上げました。」(笑)

GM：メタな発言を(笑)

「貴様に比べればたいした腕前ではない。それがただの辻斬りの集団と言うだけならば叩き潰せば済む話なのだがな。そうでなかったにしても死んだ連中からならば情報はたやすく手に入るからな、困ることもないのだが。」

モバラン：「ふむ、そうですね」

アフタル：流石はゲヘナだ(笑)

GM：「それで済むなら問題はなかったのだが。それが人間であるならな。」

モバラン：「ほう？」

GM：「どうにも奴らはおかしい。」

モバラン：「死体から情報が剥げないとでも？」

GM：「そいつらがどうにもまっとうな生き物ではないようだな。」

モバラン：「邪霊か、幻かなにかと言うことですかね？」

GM：「後者のほうが近いな、邪霊であればむしろ我等の管轄内といったところ、必要とあれば倒すまでのこと。それが紫連杯の役目でもある。だが、やつらは姿形は人間であり、闘技や魔術まで使う。しかもその力は一般人ではなく享受者のものだ。」

モ balan：「ほほう」

GM：「だが、死体からはゴーストマウスでも情報を吐かせられず、しかも死体は数日のうちに消えてなくなる。幻鏡域から出てきた生き物に近いのだが幻鏡工房からは生き物が抜け出したと言う報告は入っていない。どうにも不明瞭な点が多くてな、貴様にこの事件を解決してもらいたい。」

モ balan：「なるほど。報酬のほうは？」

GM：「前金で 4000Di 払おう。無事解決すれば 5000 追加で払う。」

モ balan：「ありがたい幸せ」本当に本当にありがたい幸せ（笑）

GM：と言っているところでその部屋に一人の男が入ってくる。そして何事かザイドに耳打ちする。

「ちょうどいい。今、辻斬りが一体街で暴れだしたようだ。誰か相手をしているらしいが…。そいつに協力するなりして始末してくれ。」

モ balan：「まあ、被害者が出る前に何とかしましょうかね。」

GM：「そいつの所属している紫連杯次第では、つまりは界螺のものであるなら協力を要請している。報酬は同じだけ出そう。相手が凌渦や鐘杏であれば厄介事にならんようにな。袈唇であれば言うまでもない。わかっているな？」

モ balan：「は、では失礼します。」

と言って足早に現場に向かいます。

GM：とすることでシーンは移ります。